

III 研究ノート III

韓国，踊る群衆（ I ）

澤 喜司郎

はじめに

韓国の野党3党は、2016年12月3日に朴槿恵大統領の弾劾訴追案を発議し、国会は12月9日に訴追案を可決して憲法裁判所に弾劾決議書を提出しました。2017年2月27日に弾劾審理の最終弁論が行われ、検察は3月6日に最終調査結果を発表し、憲法裁判所は3月10日に朴大統領の罷免を決定しました。ソウル中央地方検察は3月21日に朴前大統領の取り調べを行い、27日に逮捕状を請求し、31日に逮捕状が発布され、朴前大統領は逮捕され、4月17日に収賄罪などで起訴されました。

国会による弾劾訴追案の可決、憲法裁判所による罷免、ソウル中央地検による逮捕について、韓国経済新聞論説顧問の鄭奎載氏は3月31日のインターネット放送「鄭奎載TV」で、「愚かな群衆が改革大統領を弾劾した終末と破局」と述べ、「朴前大統領が逮捕された事態をめぐって泣く人は少数。多くの国民、すなわち広場の踊る群衆は魔女を鉄の檻に閉じ込めたことを祝い嘲弄している」「彼らは『われわれが主権者だ。いま正義は実現された』として祝杯を上げている」とした上で、今回の事件を「巨大になり腐敗した国会が改革大統領を弾劾した事件」「狂気にとらわれたメディアが改革大統領を逮捕した事件」「労働者の血を吸う強硬路線労組が改革大統領を弾劾した事件」「悪魔のささやきにあまりに簡単に自身の耳を貸す愚かな群衆が改革大統領を弾劾した事件」と定義し、「行き来した金がない賄賂事件という希代の犯罪を記憶しなければならない。謀略と陰謀と大衆の無知が作り出し

た希代の事件を私たちは永遠に記憶しなければならない」と述べていました(中央日報日本語版 2017年4月2日12時21分配信)。

本稿は、韓国メディアの報道を中心に憲法裁判所による朴大統領の罷免の決定に至るまでの過程における、鄭奎載氏がいう「愚かな群衆」「『われわれが主権者だ。いま正義は実現された』として祝杯を上げている群衆」について報道された実態を通して、韓国民主主義の異質性についての若干の検討と、韓国では世論が過剰に意識され、その世論を誘導しているとされるメディアについての若干の検討を試みるものです。¹⁾

1 野党が憲法裁判所を脅迫

共に民主党の文在寅前代表は2月7日に、「政界はもう少し弾劾政局に集中し、ろうそく集会の市民もろうそくをもっと高く掲げて、弾劾が必ず貫徹されるよう一緒に力を合わせて行かなければならない」(ハンギョレ新聞2月9日11時42分配信)と呼び掛け、各党は支持者らを動員して憲法裁判所に露骨に政治的圧力をかけていました。朝鮮日報の社説「憲法裁を脅迫、法治と民主主義に反する韓国の政治家たち」(日本語版2月9日9時54分配信)は、文前代表の呼び掛けを「懸念すべき行動だ。文氏はキャンドル集会に集まった群衆の数によって法理に基づく判断を変えられるとでも思っているのだろうか。法治を守ることが使命でもある大統領になろうとする人物が、このように露骨な扇動をしているようでは困る。共に民主党、国民の党、正義党の野党3党の代表は昨日行った緊急の会合で、憲法裁判所の李貞美所長権限代行が退任する3月13日よりも前に、朴大統領弾劾の最終決定を下すよう憲法裁判所に求めた。議席数が最も多い政党の有力大統領候補や野党の代表らが、公の場で憲法裁判所を脅迫しているのだ」と批判していました。²⁾

1) なお、本稿の表題は「韓国、踊る群衆」となっていますが、内容は前稿「韓国民主主義の異質性」の続編であることを付記しておきます。

2) ハンギョレ新聞のコラム「名誉革命? 夢物語はするな」(2月9日11時42分配信)は、「憲法裁判所の2月弾劾が水泡に帰すと、危機を感じた野党勢力は再びろうそく集会動員令

そして、同社説は「現在、国内で最も心配されていることは、弾劾審判の決定が下された後だ。弾劾が成立してもしなくても、このままでは一方から深刻な反発が起こることは避けられない。各党が憲法裁判所をこのように堂々と脅迫し、圧力を加えれば、それに対する反発も当然大きくなるからだ。また決定が自分たちの意向通りにならなかった側は『憲法裁判所は脅迫に屈して公正な判断を下せなかった』と主張するかもしれない。感情が高ぶった群衆が何らかの大義名分まで手にすれば、もはや手が付けられなくなるのではないか」との懸念を示していました。³⁾

また、朝鮮日報の社説「憲法裁決定への承服を明言しない韓国大統領選候補者たち」（日本語版2月10日10時32分配信）は、「憲法裁判所は憲法と法律、民主的な手続きによって弾劾の審理を行っている。ところが政治家たちが自らこれを否定し、自分たちが望まない結果が出ればこれに承服しないことを示唆するとすれば、これは都合の良いときだけ憲法、法律、民主主義を口にし、都合が悪くなればいつでも反民主、反法治になれるということを自ら白状するようなものだ」「憲法裁判所の決定に承服することは、大韓民国の憲法と法律、民主的な手続きに従うことを意味し、これは今更声を大にして言

を下した。野党勢力が自分たちの政治的立場を強めるためにろうそくを利用しているように見える。野党勢力は今の局面を正確に読まなければならない。大統領選挙で勝つことだけが大切なことではない。ろうそく市民が要求する積弊の清算を担保できない大統領選挙勝利は、彼らだけの権力交替に過ぎない」「一時は“名誉革命”が議論されましたが、革命どころかわずかな改革すらも反動の荒々しい波で座礁しそうになっている」「ろうそく市民はただ雰囲気だけを形成し、改革は政界に任せてほしいというやり方では困る」としていました。

3) また、同社説は「与党セヌリ党は先週末に開催されたいわゆる太極旗集会に金文洙元京畿道知事、李仁済元最高委員、尹相現議員らが参加した。金文洙氏らは大統領弾劾に反対する市民と共にデモ行進を行い、弾劾を棄却すべきと訴えた。セヌリ党関係者の中には、今後この太極旗集会に堂々と参加する意向を示した人物もいる。崔順実問題の責任の一端を負うべき政党が街頭闘争に乗り出すとは一体どういうことか。このように各党は憲法裁判所の『弾劾容認説』『弾劾棄却説』にそれぞれ言及し、支持者らをおおって危機感を持たせようとしている」と批判していました。

このような中で、2月7日に正しい政党の朱豪英院内代表が国会で「全ての政党は憲法裁判所の決定に承服することを約束しましょう」と呼び掛け、2月9日に国民の党の安哲秀議員は「憲法裁判所に圧力を加えるのは望ましいことではない」と述べ、キャンセル集会への不参加を明言しました（朝鮮日報日本語版2月10日10時32分配信）。

うべきことでもない」「大統領選挙候補者がまず先頭に立ち『いかなる決定が下されても潔くこれに承服し、国の安定に協力したい』と国民に約束しなければならない。いずれにしても国を正常化させるため最初にやるべきことは憲法裁判所の決定に承服することだ」としていました。

続けて、同社説は「朴大統領の弾劾を求めるキャンドル集会と、弾劾に反対するいわゆる太極旗集会がいずれも2月11日に開催が予定されていることから、その現場となるソウル市内中心部では緊張が高まっている。キャンドル集会の主催者は弾劾が自分たちの思い通りの結果にならない恐れがあるとの理由で、大々的な動員に動いているようだが、審理の先行きに関する話は根拠のない単なるうわさだ。その一方でこれに対抗する太極旗集会も、今回はこれまでで最大規模の集会にするとすでに宣言している」「双方とも群集心理を利用し、憲法裁判所の決定を自分たちの思い通りにしようとしている。このままでは憲法裁判所がどのような判断を下しても、それに反対する側が大きく反発することは火を見るよりも明らかで、これは絶対にあってはならない最悪の事態だ。これに加えてもう一点深刻なことは、特に野党側の候補者たちがこの対立を自ら煽っていることだ。中でも現状で支持率1位の文在寅共に民主党前代表は地方でのスケジュールをキャンセルしてキャンドル集会への参加を決めた。文氏が昨年『弾劾が棄却されれば革命を起こすしかない』と発言したことも記憶に新しい。弾劾が棄却されればそれに承服しないのはもちろん、結果を力でひっくり返すということだろうか」「そのような政治家に対して国民ははっきりと『ノー』を突き付けなければならない」と訴えていました。

2 退陣行動が2月非常時局宣言

「退陣行動」は2月9日に「2月ろうそく非常時局」を宣言し、「朴槿恵・セヌリ党と庇護勢力が反撃を狙う今、何より重要なのが、朴大統領の犯罪を余すところなく明らかにしていくことだ」「憲法裁判所の弾劾引き延ばしを防

ぎ, 特検延長と朴大統領拘束のためには, 国民の力が必要な時だ」とし, 2月11日の15回目のろうそく集会から再び大規模集会として展開する計画を明らかにしました。

そして, 「退陣行動」は2月9日に憲法裁判所前で記者会見を開き, 2月11日に「朴大統領に対する迅速な弾劾審判を求めて特検の延長を要求する第15回汎国民行動の日(集会)を開く」と発表し, 今月の3回にわたる週末ろうそく集会を全国規模の集会として開催することを目指し, 「100万人の市民が光化門広場に雲集した昨年11月の集会のように, 今回ももう一度ろうそくを再現してほしい」と市民に参加を呼び掛けていました (WoWiKorea 2月9日14時10分配信)⁴⁾。「退陣行動」が参加を呼び掛けたのは, 昨年12月に朴大統領に対する弾劾訴追案が可決されて以来初めてで, ハンギョレ新聞 (2月10日11時54分配信) は「朴槿恵大統領の弾劾引き延ばし作戦と保守・極右勢力の反撃が露骨化している中」「進展が見られない弾劾審判と特検の延長が急務だと判断した」のだろうと報じていました。

2月11日に「退陣行動」がソウルで15回目となるろうそく集会を開き, 主催者は延べ70万人が参加したとしていました。参加者は, 「朴大統領と与党セヌリ党が朴大統領に対する弾劾審判を遅らせようとしており, 朴大統領に絡む疑惑を捜査している特別検察官チームに害を与えている」と主張し, 「弾劾遅延なんてとんでもない」「特検を延長せよ」「朴槿恵を逮捕しろ 今すぐ逮捕しろ」と声を上げていました。政界から弾劾棄却説などが流れた後ということもあり, 共に民主党の文在寅前代表, 禹相虎院内代表, 安熙正忠清南道知事, 国民の党の朴智元代表ら野党指導部や次期大統領選有力候補が集会

4) また, 「退陣行動」の財閥拘束特別委員会は, 「サムスン電子の李在鎔副会長の拘束令状が棄却されたのに続き, 鄭夢九 (現代自動車グループの会長), 崔泰源 (SKグループ会長), 辛東彬 (重光昭夫, ロッテグループ会長) など財閥総帥らが免罪符をもらう可能性が高くなった」「政経癒着と財閥体制を終わらせなければならない」と主張し, 集会前日の2月10日午後3時から「非正規雇用や整理解雇, 労組弾圧のない世の中を作る1泊2日大行進」と名付けた行進では, 江南区大峙洞の特検事務所を出発し, 国会, 光化門広場を経て青瓦台までの約16kmを歩くとしていました (ハンギョレ新聞 2月10日11時54分配信)。

に出席していました（聯合ニュース2月11日21時8分配信）。⁵⁾

午後6時からの本集会で、民主労働組合総連盟のキム・ギョンジャ副委員長が2月の弾劾を求める基調発言を行い、「朴槿恵大統領と犯罪者集団は、特検活動の期限が終わる2月28日と李貞美裁判官の任期が終わる3月13日が過ぎれば、弾劾は水の泡に帰すと思って居直り続けている」「状況が緊迫しているだけに、ろうそくをもっと高く掲げよう」「今月18日に大規模な集会を開き、25日にはソウルに集まって集中集会を開くことで朴大統領の弾劾を決定づけよう」と述べていました（ハンギョレ新聞2月12日6時43分配信）。

また、本集会ではバンドの「ホットポテト」が舞台上がり、本集会が終わるころ、同日が小正月であることから「退陣行動」は悪霊払いの意味を込めて、消灯行事の際に「退陣」と書かれた満月風船を飛ばし、朴大統領の退陣を祈るパフォーマンス「退陣満月」を行いました。本集会後の午後7時30分頃から行進を行い、以前は青瓦台、憲法裁判所、財閥企業の本社という3つの方向に分かれて行われていましたが、同日はいったん青瓦台方面に向けて行進してから、行進隊列全体が憲法裁判所方面に移動しました。行進中にも朴大統領の退陣を願う短冊を燃やし、大同祭り（伝統的な農民の祭り）など様々な行事が行われていました（ハンギョレ新聞2月12日6時43分配信）。

一方、朴大統領の弾劾に反対する弾棄国は、ソウルの徳寿宮の大漢門前で大規模な太極旗集会を開き、徳寿宮のそばのソウル広場も参加者で埋め尽くされ、主催者は210万人が集まったとし、セヌリ党議員や朴大統領の代理人団の徐錫九弁護士も参加し⁶⁾、参加者は弾劾棄却と特別検察官チームの解散を

5) ろうそく集会に参加した共に民主党の文在寅前代表は記者らと会い、「弾劾案が棄却されても承服するだろう」としながらも、「ただ主催者の心が憲法であり、憲法裁判所はこの民心をしっかりと支持して下さるものと考えて」と憲法裁判所に圧力をかけ、「早急な弾劾への望みを多くの国民が持っている。朴大統領が特別検察官の捜査まで拒否したのは決して許せない」「国家指導者として国法秩序を無視する仕打ちをした」と朴大統領を批判していました（中央日報日本語版2月12日10時37分配信）。

6) 徐錫九弁護士は、「(大統領弁護士である)私が演説するのは不適切だと考える。ただ感謝の挨拶だけして行く」「この集会を米国など全世界が見ており、ここに外信記者も多い」「今日は私が生まれて一番幸せな瞬間だ。われわれは勝利するだろう」「今日は憲政以来最高に多くの人が集まった。この場にいるすべての愛国市民に感謝申し上げます」

求めていました。また、鍾路の清溪広場でも朴大統領の弾劾に反対する別の団体によって弾劾反対集会が開かれました。

なお、ハンギョレ新聞（2月13日7時45分配信）は、史上最大の人出だったという2月11日の弾劾反対集会では「ニュースタウン」「フリーダム・ニュース」「ノーカットイルベ」など、検証されていない内容を数多く掲載した新聞形態の印刷物が大量に配布され、偽ニュースで盛り上がり、集会参加者は偽ニュース紙を握って「濡れ衣の弾劾は無効」「特検の解体」「国会解散」などと叫んでいたと報じていました。⁷⁾

3 憲法裁を脅迫する大統領候補者

朝鮮日報の社説「韓国憲法裁を脅迫するデモに参加する大統領候補者たち」（日本語版2月13日10時30分配信）は、2月11日に光化門広場でろうそく集会と太極旗集会が同時に開催され、「警察と機動隊バスに遮られたため双方の物理的な衝突は起こらなかったものの、現場では終始一触即発の緊張した雰囲気が続いた。ただし双方の過激な扇動や相手に向けた憎悪と敵愾心むき出しの言動は、すでに一線を越えたと言わざるを得ない。昨年12月9日に

る」と話しました（中央日報日本語版2月12日10時37分配信）。

7) ハンギョレ新聞（2月13日7時45分配信）は、偽ニュースの内容を「ニュースタウン」の1面トップ記事「『太極旗の命令』国家転覆陰謀を直ちに止めよ」「政治・マスコミ・司法・ろうそく勢力の深刻な憲法蹂躪」は、「愛国国民ははっきりと見た。政治とマスコミ、司法、ろうそく勢力が国家転覆の恐ろしい刃を身につけているということ。…彼らが合勢して大韓民国を共産化しようとしていることを。…彼らが憲法を無視して無条件に朴槿恵大統領を引きずり下ろし、無血クーデターで政権を奪取しようとしていることを」と紹介し、2面の記事「従北の狂気、文在寅の革命？」は「文在寅共に民主党前代表が昨年12月、あるメディアのインタビューで『弾劾が棄却されたら革命しかない』と発言したことを批判する内容…。『ろうそく集会、中国人留学生動員説』は、先月ある記者のブログで始まった主張で、『韓国には6万人を超える中国人留学生が滞在しているが、中国がこの留学生たちを朴槿恵大統領弾劾のためのろうそくデモにこっそり参加させた』という内容だ」「国内の中国人留学生が大々的に加勢することで、彼らの主張と要求が純粋な『国民の意思』ではなく、民主労総の支配と全国言論労組に操られている総合編成などの意図的な誤報と、歪曲・捏造された宣伝扇動に一時的に激昂した『民心』に便乗した内乱に外勢まで取り込んだ売国的行動が行われているという事実だ」と紹介していました。

国会で朴槿恵大統領の弾劾決議が可決されてから2カ月が過ぎたが、国の危機的状況は落ち着くどころかさらに悪化している」「憲法裁判所周辺でも双方のより過激な集会が行われているが、これも今や表現の自由の次元を超えた文字通り強圧的な行動だ。法治を守ると言いながら法治を脅かす彼らの矛盾した行動は、絶対に容認するわけにはいかない。一方で双方の主催者は、自分たちの集会の参加者数を何とかして増やそうと必死だ。このままでは憲法裁判所による決定の日が近づくほど、彼らの行動はさらに過激になるだろう」と懸念を示していました。

その上で、同社説は「この無謀な競争は、憲法裁判所による法律に基づいた判断を政治的な勝者と敗者に分ける結果をもたらす。そうなれば敗者となった側の激しい反発は、韓国社会全体をも敗者としてしまうだろう。そうならないためには双方とも直ちに集会をやめ、憲法裁判所の決定を落ち着いて待たねばならない。そして双方の主催者が『いかなる決定が出ても承服する』とまずは宣言しなければならない。もし承服しないのなら、これまで彼らが訴えてきた法治や民主主義などの大義はすべて虚偽の主張であり、彼らが批判してきた相手と実際は同じ種類の人間であることを自ら告白するようなものだ」としていました⁸⁾。

2月13日に、自由韓国党(旧セヌリ党)、共に民主党、国民の党、正しい政党的院内代表は丁世均国会議長と会合し、憲法裁判所の弾劾審判でどのような判断が示されても結果を受け入れることに合意したと口頭で伝えました(聯合ニュース2月13日17時56分配信)。朝鮮日報の社説「弾劾審判の憲法裁判決定、デモ参加者も承服を宣言せよ」(日本語版2月14日10時58分配信)は、

8) また、同社説は、2月11日のろうそく集会に参加した共に民主党の文在寅前代表は「『わたしは(憲法裁判所の決定に)承服するが、民心とかけ離れた決定が出た場合、国民は絶対に容認できないだろう』と発言した。『承服する』という言葉が文氏の本心かどうかは分からないが、彼の口からこの言葉が出ただけでもまずは幸いなことだ。いずれにしても大統領選挙の有力候補者たちは、今後憲法裁判所に圧力を加えるような集会に参加すべきでなく、また憲法裁判所の決定に承服することを10回でも20回でも明言しなければならない。決定が下された後にその影響を最小限にとどめる方法があるとすればこれしかない」と指摘していました。

「本来憲法裁判所の決定は承服するかどうかという性質のものではなく、承服自体は当然のことだ」「そのため今回、主要政党が憲法裁判所の決定に承服を約束したことは大きな意味がある」と一応の評価をしていました。

続けて、同社説は「ただ問題はキャンドル集会と太極旗集会の参加者たちだ」「キャンドル集会、太極旗集会の現場では、もし自分たちの意向に沿った決定が下されなければ、これを受け入れないよう扇動するかのような主張が公然と語られている。つまりもし憲法裁判所の決定が気に入らなければ、彼らはこれをひっくり返そうと考えているのだ」「彼らはいずれも時間がたつほど一層過激になり、時に暴力的な行動の兆しも見えつつある。それに伴って憲法裁判所の決定が下された後のことを懸念する声もこれまで以上に高まっている」「このままでは憲法裁判所が何らかの決定を下した直後から、国全体がかつてない混乱と対立に巻き込まれてしまうだろう」「決定が下されるまでの時間もそう多くは残っていない。両集会の主催者は今こそ決定に承服することを互いに約束し、今の危険で先行きが見えない状況を打破しなければならない。相手は自分たちと考えは違っても同じ国民であり、決して敵ではないからだ」と主張していました。

他方、中央日報の社説「法を作る政界の憲法裁判所圧迫は法治主義の放棄だ」（日本語版2月19日13時17分配信）は、「朴槿恵大統領弾劾を促すろうそく集会と弾劾に反対する太極旗集会の対決がますます激しくなっている。双方とも憲法裁判所を圧迫し弾劾審判決定に影響を及ぼすという意図を露骨に表わしている。深刻な国論分裂に対する懸念はもちろん、憲政秩序が破壊され法治主義の根幹が崩れる極端な状況に流れないだろうかと心配する市民が増加している」としていました。

4 躓いたろうそく革命

憲法裁判所が3月上旬に判断を下す可能性が取り沙汰されている中、2月18日に光化門広場一帯で朴大統領の罷免を求める16回目のろうそく集会が開か

れ、「退陣行動」は朴大統領と黄教安大統領権限代行首相の即時退陣、特別検察官の捜査期間延長などを訴えていました。また、朴大統領側に巨額の賄賂を贈った疑いなどでサムスン電子の李在鎔副会長が逮捕されてから初めての集会のため、共犯とされた朴大統領に対する厳正な捜査と迅速な弾劾を求める内容が強調されていました。集会には主催者発表で延べ70万人が参加したとされ、大統領選の有力候補の共に民主党の文在寅前代表や同党の安熙正忠清南道知事も参加しました。集会後の午後7時半頃から、青瓦台と憲法裁判所、財閥企業の建物が集まる鍾路などに向かって行進が行われました（聯合ニュース2月18日21時2分配信⁹⁾。

他方、弾劾棄却を求める13回目の太極旗集会が大漢門一帯で開かれ、弾棄国のチョン・グァンヨン報道担当は「(ろうそく集会は) 直接目で見たら多くて5000人程度。太極旗集会は目で見ても250万人」と主張していました。集会には自由韓国党の金鎮台議員をはじめ、親朴派に分類される尹相現、趙源震、全希卿議員らが参加し、尹相現議員は「崔順実ゲートではなくコ・ヨンテゲートだ。結局コ・ヨンテ党がKスポーツ財団を強奪し大統領を殺そうと仕組んだ陰謀だ」と主張し、金鎮台議員は太極旗を身体に巻いたまま「黄教安大統領権限代行が法務部に捜査指揮権を発動しコ・ヨンテを逮捕させなければならない。特検チームの捜査期間を延長しないことを要請する」と主張していました（中央日報日本語版2月19日12時30分配信）。

中央日報の社説「法を作る政界の憲法裁判所圧迫は法治主義の放棄だ」（日本語版2月19日13時17分配信）は、「『大統領弾劾棄却のための国民総決起運動本部』は国民抵抗運動突入を宣言した」「集会参加者に配った印刷物に

9) ろうそく集会の重要な価値とされる「多様性」はろうそく集会の舞台にも受け継がれ、韓国ゲイ人権運動団体「チングサイ（友達同士）」の合唱クラブの「Gボイス」が公演を行い、青瓦台と憲法裁判所100m近くで歌手の歌に合わせて大同祭りを繰り広げる計画とされていました。また、「退陣行動」のアン・ジンゴル常任運営委員は「弾劾案可決以来、さらに一歩進むことになったので、互いに祝い合う雰囲気ではあるが、依然として朴大統領側が弾劾を引き延ばそうと姑息な手を使っているだけに、不安な気持ちもある。今年に入って最も多くのろうそく市民たちが集まって弾劾案の早期認容を叫ぶだろう」と、集会前に話していました。（ハンギョレ新聞2月18日14時18分配信）。

は『憲法裁判所が罪のない大統領を弾劾したことを適法と判決する瞬間にメディア・国会・司法府・労組が起こした政変が成功したものと認めることになるため憲法裁判所の決定を認めることはできない』『司法府の金日成奨学生従北左派判事・検事を弾劾しなければならない』などの常識を超えた極端な主張が含まれていた」とし¹⁰⁾、一方で「ろうそく勢力の応戦集会も変わらなかった」「出所が不明なチラシには『憲法裁判所棄却は民衆という銃の激発機と同じだ』『弾劾を棄却すれば承服ではなく革命』とし露骨に市民抗争を促す内容であふれていた。さらに呆れたのは国家保安法違反で服役中の李石基元統合進歩党議員が良心犯に化け政治工作のスケープゴートのように宣伝されている事実だ。崔順実国政介入事件を契機にこれまでの積弊を正し大韓民国をリセットしようと集まったろうそく集会で『李石基釈放』のスローガンが聞こえる退行的状況は正常ではない」と、両集会での常識を超えた極端な主張や退行的状況に懸念を示していました。

他方、ハンギョレ新聞のコラム「大統領の選出よりも大事な事」（2月19日14時43分配信）は、「“ろうそく革命”が岐路に立たされている」「ろうそく集会在激しく押し上げた弊害清算の戦線は危うくなった。経済改革，マスコミ改革，検察改革など，ろうそく精神の制度化は壁にぶつかった」「ろうそく革命が躓いているのには野党の責任もある。大統領選の形勢が一方的に傾き，あまりにも早合点し過ぎた。“勝者の呪い”に陥る兆しさ見える。『大統領選挙で勝てば，すべて解決する』という生半可な楽観論で，懸案から遠ざかっていた。『誰が出ても勝つ』という傲慢さから各自が生残る道へと進んだ。野党には軌道修正が必要である」「大統領を変えるだけで，すべてが解決するわけではない」としていました。

また，中央日報の社説「国を分裂させておいて弾劾戦争に勝って何の意味

10) ハンギョレ新聞（2月19日14時43分配信）は、「太極旗部隊」は，偽ニュースを量産し，弾劾さえ阻もうとしている。守旧メディアは，過激な勢力の不買運動の脅迫と資本権力の物量攻勢を意識したかのように，特検捜査にまでケチをつけ始めた。そのうち，弾劾決定以降逆風の兆しが見えれば，どのように豹変するか分からない」と報じていました。

があるのか」(日本語版2月20日15時9分配信)は、ろうそくと太極旗の「群衆対決が『心理的内戦』水準を越えたのではという懸念が出ている」「今まで光化門のろうそく大衆と市庁の太極旗集団は平和的な姿勢を堅持してきた」が、2月18日の「ろうそく集会で『李石基釈放』『THAAD配備反対』のように国の混乱を招くスローガンが登場したのは昨日今日の事ではないが、今は公に民衆革命と暴動を主張する勢力が闊歩している」「『文在寅氏が話した「弾劾棄却なら革命」という言葉に戻るべきだ』『今は中間層の要求通り非暴力に従っているが、棄却されれば当然変わる』とし、暴力の準備を促す印刷物をいかなる制裁もなく配った」と報じ¹¹⁾、ろうそく集会に参加した群衆が「退陣行動」によって民衆革命と暴動へと誘導されているため「民主共和政憲法体制で政治の存在理由は革命を防ぐことだ。野党の大統領候補はろうそく集会に競争的に参加する場合ではない」と主張していました。¹²⁾

5 激しくなる土曜集會

憲法裁判所が弾劾審判最終弁論日を2月27日に決定し、特別検察官の捜査が終盤に近づき、朴大統領の就任からちょうど4年となる2月25日の週末集會を控え、弾劾賛成派は「朴権恵4年、もう終わらせよう」、弾劾反対派は「就

11) また、同社説は「太極旗行事で『朴権恵大統領を愛する会』のチョン・グァンヨン会長は『今日から方向と性格、方式を変える』としていわゆる国民抵抗本部の発足を宣言した後、『その間、平和的な方法を守ってきたが、今後は法が許容する範囲内で完全に違う方式になる可能性がある』と述べた。数十万人の人波の中で『愛国暴動が方法であり真理であり生命』『戒厳令が答え』『弾劾無効、国会解散、特検解体』と書かれた宣伝物も登場した」としていました。

12) 朝鮮日報(日本語版2月23日9時45分配信)は、「現在、大韓民国は朴大統領の弾劾を求める『キャンドル勢力』と、弾劾棄却を求めるいわゆる『太極旗勢力』に分かれて国が二分している。彼らは自分たちの意にそぐわない結果が出た場合、これを認めない考えをすでに明確にしている。そのため本来は事実と法律のみに基づいて判断を下すべき憲法裁判所においてさえ、今や『血で血を洗う』『内乱』などの言葉が飛び交うようになった」「朴大統領の弾劾を求める『キャンドル勢力』は堂々と『弾劾が棄却されれば革命』と主張しており、弾劾に反対する『太極旗勢力』は『弾劾が成立すればアスファルトを血が覆う』とためらいもなく口にしてている。このように破局が少しずつ近づいている」と報じていました。

任4周年, 太極旗が守る」と正反対のスローガンを掲げ, 双方とも2月25日と3月1日(三一節, 独立運動記念日)に大規模な集会の開催を予告していました。そのため, 「緊張感が高まっている」(聯合ニュース2月25日8時0分配信), 「広場での葛藤はさらに激しくなり, 溝はさらに深まると予想される」(中央日報日本語版2月25日10時28日配信)と言われていました。¹³⁾

「退陣行動」は2月25日のろうそく集会にソウルで100万人, 全国で107万8130人が参加したと発表し, ハンギョレ新聞(2月27日7時1分配信)は「憲法裁判所の弾劾審判で, 朴大統領側代理人団の裁判所無視が度を越している, 特捜捜査期間を黄教安大統領権限代行が延長する意向を見せないことに対する怒りが市民を広場に呼び集めた」と報じていました。午後7時50分頃の一斉消灯行事でろうそくの灯が消えると, 光化門広場横のソウル庁舎の正面には「朴槿恵拘束」「特検延長」「黄教安退陣」という文字がレーザー光線ですべて鮮明に描き出され, 群衆は赤い韓紙で包まれたろうそくを一斉に高く掲げる「レッドカード」(退場)パフォーマンスを行い, 「朴槿恵を弾劾せよ」「特検を延長せよ」「黄教安は退陣しろ」と叫んでいました。本集会を終えた群衆は, 青瓦台, 憲法裁判所, ハンファ(韓化)・ロッテ・SK財閥の本社がある乙支路など三方面に分かれて行進を始め, 青瓦台方面への行進では松明が再び登場しました(ハンギョレ新聞2月27日7時1分配信)。共に民主党の文在寅前代表など野党の有力政治家も参加していました。

弾劾国が開いた太極旗集会では, 憲法裁判所に対して弾劾の棄却を要求

13) 「退陣行動」は, 「2月25日のろうそく集会を労働界と市民団体が大量参加する大規模な民衆総決起大会として開く」「3月の春を民主主義と自由が解放される日にしなければいけない」とし, 光化門広場で朴大統領の退陣や弾劾, 黄教安大統領権限代行首相の退陣などを求める集会を開き, 韓国労組の二大全国組織の一つの全国民主労働組合総連盟(民主労総)や全国農民会総連盟(全農)などでつくる「民衆総決起闘争本部」も集会を予定し, これまでより大規模な集会になる見通しと報じられていました。一方, 弾劾国は貸切りバスを動員して釜山・慶南・蔚山・大田など11地域の市民を集結し, 「朴槿恵大統領は太極旗が守る。我々が持つすべてをかけて自由と正義を守護し, 法治主義を実現する」としてソウル市庁前のソウル広場などで集会を開くとし, 一部の日刊紙に「コ・ヨンテ一味によって企画された陰謀で濡れ衣を着せられた大統領を守るため, 皆が行動しなければならぬ」と訴える広告を掲載しました(聯合ニュース2月25日8時0分配信, 中央日報日本語版2月25日10時28日配信)。

し、集会には朴大統領の代理人や自由韓国党の議員も参加していました（聯合ニュース2月25日22時57分配信）。ハンギョレ新聞（2月25日12時31分配信）は、延べ1300万人を超える国民がろうそくを掲げて街頭に繰り出し、各種調査で80%前後が大統領弾劾に賛成しているにも関わらず、弾劾に反対する太極旗集会には多数の中老年層が参加し、「腕まくりして街頭に出ている多くの中老年層にとって、今韓国は“内戦中”だ。大げさではない。徳寿宮大漢門前の弾劾反対集会場に行くと『軍隊よ、立ち上がれ』と書かれたプラカードをすぐに見つけることができる。露骨な軍事クーデターの訴えだ』『弾劾認容の際には『物理力』で対抗する人々がいるだろうという警告だ』『違憲的な事実上の『内乱扇動』だ』と報じていました。¹⁴⁾

また、朝鮮日報の社説「国が完全に二分、決着の時が近づく朴大統領弾劾問題」（日本語版2月27日9時33分配信）は、「25日に開催された弾劾反対を訴えるいわゆる『太極旗集会』では『弾劾が成立すればアスファルトに血が流れ、予想もできない悲劇が起こるだろう』など過激な発言が相次いだ。ネットでは李貞美憲法裁判所所長権限代行の殺害を予告する書き込みも見ついている。この書き込みを行った20代の男性は警察に自首したが、これは絶対に見過ごせない深刻な問題だ。これに対して弾劾成立を求めるキャンドル集会の側は、以前から『（弾劾が）棄却されれば革命』などと主張してきた。いずれも憲法裁判所の決定を覆すことを堂々と明言しているのだ。このように極度に感情が高ぶった集会参加者たちを落ち着かせるべき大統領候補者たちは、逆に自ら集会に加わり参加者たちを一層煽っている。彼らは権力欲によって完全に理性を失い、自分が恥ずべき行動を取っていることさえ理解で

14) また、ハンギョレ新聞（2月27日7時39分配信）は、「憲法裁判所の弾劾審判の弁論終結が近づくにつれて、朴槿恵大統領の弾劾に反対する人たちの過激な行動が一層激しさを増している」とし、弾劾国が開催した第14回弾劾棄却のための総決起国民大会では様々な過激発言と暴力行為が相次ぎ、弾劾国のチョン・グァンヨン共同代表が憲法裁判所に向かって「憲法裁判所に悪魔の裁判官が3人いる。彼らのせいで、朴大統領の弾劾が認容された場合は、アスファルトに血が流れるだろう。惨劇を見ることになる」と声を荒げ、メディアウォッチのピョン・ヒジェ代表が李貞美憲法裁判所所長権限代行と姜日源主審裁判官に対し「憲政全体を弾劾しようとしている。（私たちは）あなたたちの安全を保障できない」と警告したと報じていました。

きなくなったようだ」としていました。¹⁵⁾

なお、中央日報（日本語版2月27日8時0分配信）は、「ソウルの真ん中を分ける広場の集会が過激になっている。週末に続いて三一節（独立運動記念日）にもろうそく集会和太極旗集会がともに大規模な都心デモを予告した。特に『大統領弾劾棄却のための国民総決起運動本部』（弾劾国）が青瓦台方面への行進を警察に申告し、光化門広場に集まるろうそく集会側と衝突する可能性も排除できない状況だ」と懸念を示していました。

6 ろうそくゾンビとアスファルトおじいさん

中央日報の社説「対立だけを煽る大統領候補、破局を望むのか」（日本語版2月27日17時25分配信）は、朴大統領就任4周年である2月25日には、全国の都心でろうそく集会和太極旗集会が開かれ、双方の集会はますます激しくなっているとし、「太極旗集会では、60代高齢者がガソリンをかけて焼身を試みた。これに『憲法裁判所前の無期限断食座り込み』主張に続き、李貞美憲法裁判所長権限代行など憲法裁判官の実名を名指して『安全を担保できない』のような脅迫性発言を吐き出した。憲法裁判所の権威と民主主義を踏みなじる、このような言動に同調する者は常識のある市民の中にはいないだろう」と太極旗集会の参加者を非難し、一方、ろうそく集会でも残念な姿が目撃され、「野党大統領選挙候補の文在寅『共に民主党』元代表、安熙正忠南知事、李在明城南市長が参加して『弾劾』スローガンを叫びながら憲法裁判

15) 続けて、同社説は「大統領の弾劾が憲法に定められた手続きに従って決着がつくことには大きな意味がある。弾劾という非常に重大な問題を政治的、あるいは力による対決ではなく、法律に基づいて解決できれば、これは韓国における法治のレベルを一段階引き上げることにつながる。しかしそれは憲法裁判所がどのような決定を下すかに関係なく、誰もがこれに潔く承服すればの話だ。しかし現状を見ると双方の大統領候補者たち…はほぼ全員が承服を明言しないか否定的だ。大統領を目指す人物がこのままでは、集会の参加者たちに承服を呼び掛けることなど期待もできない」「このような状況で憲法裁判所が弾劾の成立あるいは棄却の決定を下した場合、反対勢力が激しく抵抗して国全体が大混乱に陥るのは間違いない。そのため現状をこのまま放置するしかないのか、改めて考えざるを得ない」としていました。

所を圧迫した。特に、李市長は『憲法裁判所が弾劾を認容しなければ、従わずに最後まで戦う』とした。現職自治体長の口から法治主義をまるごと無視するような発言が出るとは呆れるのみだ』と嘆いていました。

そして、同社説は「大統領弾劾をめぐる保守と進歩の対立が国を二分する段階にまで深刻化している」「弾劾が認容されれば太極旗勢力、棄却さればろうそく勢力の強い反発で政局が解放直後左右翼の対立のように極度の混乱に陥る可能性を排除できない」「与野党の大統領選候補は今すぐ憲法裁判所審判以降に予想される国論分裂を防ぐ対策の準備に超党派的に乗り出す必要がある」が、「政治指導者は逆に集会現場に駆け付けて刺激的な言葉で極端的な行動を煽っているだけだ。特に、野党の大統領候補は『棄却は想像もできない』（文在寅氏）、『棄却自体を想定していない』（安熙正氏）のように弾劾が棄却される場合、それに従うという言葉を意図的に避けている」「社会の分裂が解消されないまま、来月憲法裁判所が弾劾決定を下す場合、国は予断を許さない危機状況に陥る可能性が大きい。もしかしたら、国が二分される災いを避け難いかもしれない」としていました。¹⁶⁾

他方、朴大統領弾劾審判最終弁論期日の2月27日には、憲法裁判所前で一日中、1人デモや記者会見が続き、騒然としていました。太極旗を持った

16) 日本からの朝鮮独立運動にかかわった運動家及びその子孫や遺族からなる団体の光復会は、2月27日に「三一節、太極旗の意味」と題する立場表明資料を発表し、それは「無分別な太極旗を使って特定の目的を実現しようとするのは憂慮すべきことだ」「三一節を迎え、厳粛な気持ちで太極旗の尊厳性を守ってほしい」「太極旗にリボンをつけてデモに参加したり、最初から太極旗をデモの道具にして太極旗棒を振り回しながら暴力を行使したり、法廷で突然太極旗を広げる奇行に走るなどの行動は、根本的に太極旗の神聖さを損なう行為だ」「一国の国旗は国の構成員たちの和合と団結を象徴する」「このような基本精神を無視して国民分裂を引き起こすために太極旗を使うのは、いかなる長広舌を振るうとも韓国国民を説得できない」「韓国国民の誰もが、独立運動の烈士たちが太極旗を胸に抱いて国のために犠牲になったという事実を記憶し、三一節には太極旗に対し畏怖の念を抱いてくれることを心から期待する」というもので、ハンギョレ新聞（2月28日7時39分配信）は「セウォル号のリボンをつけたろうそく集会側の太極旗使用も批判した」が、主な狙いは弾劾反対勢力にあるとし、「太極旗と星条旗が共に登場した弾劾反対集会を念頭に」「歴史的な三一節に星条旗を持ってくるのは、我が国の品格を落とし、自尊心を傷つけることに他ならない。日帝の銃刀に無惨にも消えて行った三一独立運動の烈士たちが嘆くべきことだ」と報じていました。

20～30人が午前には憲法裁判所の前で「弾劾無効」を叫び、午後1時30分頃には弾劾賛成派の市民団体の環境運動連合が記者会見で「広場のろうそく集会の民心と国民はよりいっそう明確に朴槿恵大統領の即刻弾劾を要求している」と述べ、市民から受けた5868枚の弾劾要求葉書を憲法裁判所民願室に届け、その30分後には「退陣行動」も記者会見を行い、その後には保守団体のオボイ連合が弾劾反対の記者会見を行いました。なお、午後にはソウル地下鉄安国駅2番出口前で、太極旗を持った人々が憲法裁判所に向かうのを警察官が制限したため、太極旗を持った人々は「警察ではなくスパイだ」「警察がろうそく集会に洗脳された」と声を高め、暴言ともみ合いが続きました（中央日報日本語版2月28日14時4分配信）。

また、弾劾国の会員約200人が午後5時過ぎに、安国駅付近で「憲法裁解体」を要求して大極旗を振り、「憲法裁は自ら憲法秩序を蹂躪して破壊した。今日の弾劾審判最終弁論は無効だ」と述べ、夜には約30人の弾劾反対派市民が「警察から暴行を受けた」として歩道で横になったり、警察の盾を足で蹴ったりしていましたが、午後8時40分頃に憲法裁判所の6時間半以上に及ぶ最終弁論が終わったことが伝えられると解散しました（中央日報日本語版2月28日14時4分配信）¹⁷⁾

中央日報の時視各角「弾劾審判後の分裂がもっと恐ろしい（1）」（日本語版2月28日11時32分配信）は、昨年は国論分裂に苛まれた国が特に多く、韓国と似たような道を歩んだブラジルを引き合いに、「韓国もブラジルより良い状況ではない。あちこちで『ろうそくゾンビ』『アスファルトおじいさん』のような憎しみに満ちた言葉があふれている。弾劾を賛成する側は『棄却されれば革命が起きるだろう』と、反対する側は『認容されればアスファルトに血が落とされるだろう』と脅している。少なくない大統領選候補が『望ま

17) ハンギョレ新聞の社説「醜態と強情ばかりで終わった大統領の弾劾裁判」（2月28日7時39分配信）は、「大統領は最終弁論に至るまですべての誤りをことごとく否認した」が、「弾劾の理由は十分に立証されたようだ」「憲法上民主主義と代議民主主義が損ねられたのは明らかだ」「憲法と法律を破った大統領を弾劾審判の場に立てたのは主権者である国民だ」としていました。

ない決定なら受け入れるな』と直接的に不服従を煽っている。このままなら、全国が今よりもっと激しい国論分裂の火中に飛び込むことになるだろう」と懸念を示していました。

7 闇と光と広場の狂気

中央日報の時視各角「われわれは革命を起こそうとしているわけではない」（日本語版2月28日16時44分配信）は、2月25日に光化門～崇礼門を中心に二大陣営が形成され、「気になるのは、双方から出た『闇は光に勝つことはできない』（ろうそく陣営）、『一匹一匹、あの暗闇の奴ら』（太極旗陣営）という言葉だ。双方ともに相手を闇と決めつけている。自身は光だと称する。一度、光と闇の戦いの構図になれば相手が消滅する時まで止まらない。そうするうちに共倒れになるのがオチだ。魔女狩り、歴史葛藤、理念論争、階級闘争がそうだった。ここに権力と組織が加勢して、暴力が一層増せば、革命戦争に発展する」ため、「民心が政権を後押ししたり退陣を要求したりまではできるが、憲法まで破る権利はない。朴槿恵事件を魔女、歴史、理念、階級のようなアイデンティティ問題に拡大してはならない」と主張していました。¹⁸⁾

ハンギョレ新聞のコラム「誰が“広場の狂気”を焚きつけるのか」（2月28日17時9分配信）は、「経済的に世界10位圏に達した大韓民国が、政治的にはなぜこれほどの後進性を抜け出せずにいるのだろうか。誰が“広場の狂気”を焚きつけて、私たちの社会を退行させているのか」と問い、「まず、公的

18) また、同時視各角は、イ・ウンギョル氏のマジックショーが添えられたろうそく集会の夕方の本行事は、「我々の力が強いということを知った。無茶苦茶な権力を退けることができるということを知った。春は我々が作り出した」という宣言で始まり、朴大統領の弾劾と拘束を楽観する雰囲気の流れ、数十万の人波のあちこちで十数人が騒がしい酒宴を繰り広げ、他方の数十万人が集まった午後2時から9時までの太極旗集会では酒宴は見られず、ろうそく陣営は座り、立っていた太極旗の人々には「不安と攻撃性、被害意識が複合した感情と言おうか。広場政治の出發は遅れたが、土壇場で逆転させるという戦意が感じられる」としていました。

概念が不在な政治家が挙げられる。政治家の資格要件のうち最も重要なのは公人意識を持つことだ。公とは『私的なことに背を向ける』という意味だ。だが、一部の政治家は権力を握ればこれを私的に利用して、自身と徒党の利益を得る手段として使ってきた。「私益の追求に没頭する政治家は、彼らの利益だけのために国民を自分の側と反対側に分ける。国民統合は口先だけで、自身の権力維持のために絶えず国民を分断し叩いて葛藤を助長する」と公的概念のない政治家を批判していました。

さらに、同コラムは「こうした政治家を支えているのは、一部の所信のない官僚たちだ」「私益を追求する政治家に媚びて不当な利益を得ようとする官僚が少なくない。特に国家情報院や検察警察など権力機関の官僚が最も激しい。国家を法律に則り運用し、国民の生命と財産を保護せよとして与えられた強大な権限を、自身の出世と私益のために誤用する」「問題は、自分たちがさらに積極的に出て政治家たちに忠誠を尽くし、その見返りを得ようとする官僚たちだ」「公的概念のない政治家と、所信のない官僚が解放以後、絶えることなく生命力を維持できたのは、彼らにもっともらしい我田引水論理と有利な世論環境を提供した附逆知識人がいたためだ。曲学阿世の学者、真実を糊塗するジャーナリスト、法治を愚弄する法律家が代表的な附逆知識人だ。彼らは力の強い権力者に寄生して、出世のために貧弱な知識を売り、偽りを真実に包装して、不正を正義にひっくり返す。彼らは韓国社会を蒙昧な状態に留まらせ、時には広場の狂気を幫助して焚きつける。彼らはその見返りに出世と富を手にするが、私たちの社会の正義と道徳性は失踪する。解放以後70年あまり、この基本枠組みは大きく変わらなかった」と指摘していました。¹⁹⁾

19) また、同コラムは「狂気の時代だ。朴槿恵大統領弾劾審理をする憲法裁判官を殺害するという言葉が公然と出回っている。朴槿恵・崔順実国政壟断を暴いている朴英洙特別検察官を『殺してしまえ』という声まで聞こえる。常識と理性が失踪し、野蛮と狂気が大手を振るう世の中になった。昨年1000万本のろうそくが平和に燃え上がった時、韓国社会の積弊をきれいに清算する機会が訪れるという期待が膨らんだ。だが、最近になってそれは希望混じりの楽観であったことが露わになった。大統領弾劾に反対するいわゆる『太極旗集会』は勢力を伸ばし、ますます過激化している。白色テロ

他方、朝鮮日報の社説「三・一節記念行事も左右分裂、解放直後と同じ状況に」（日本語版3月1日9時46分配信）は、3月1日に三一節を迎えるが、「国内では分裂と対立しか見られず、いつ衝突するかさえ分からない一触即発の状況が続いている」「憲法裁判所は今後10日以内に弾劾審判に対する決定を下すだろう。しかし国全体が今のように二分された状況が続けば、結論がどうなろうと大きな混乱は避けられない。集会の参加者はいずれも結構な数には見えるが、何も語らずただ国の先行きを心配する多くの国民に比べるとごく少数にすぎない。そのためこれらの過激な集会が結果として国の発展を阻害することになれば、双方が負うべき責任はあまりにも重い。一方で政治家たちは国が非常に危うい状況にあっても、自分の利益ばかりを計算し、群衆を集会への参加に扇動してきた」「彼らにいくら自重を求め、あるいは呼び掛けても今や全く通じない」とし、「この国では『何とかなるだろう』という惰性、あるいは国の運命を平気で他国に委ねる他人任せの雰囲気支配されてしまった」としていました。²⁰⁾

8 三一節と大規模集会

独立運動を記念する三一節（独立運動記念日）の3月1日午後2時に、光化門広場で警察車両610台が光化門広場を取り囲むように巨大な「コ」の字型の壁を築き、壁の内側では18回目となるろうそく集会が開かれ、壁の外側では15回目となる太極旗集会が開かれ、太極旗集会参加者がろうそく集会参加者を取り囲むような形になりました。両陣営は壁を挟んで真っ向から対立し、壁の外側で弾劾反対派が「特別検察官を逮捕しろ」と叫ぶと、壁の内側の弾劾賛成派は「朴大統領をまず逮捕しろ」と呼び返していました。太極旗

が乱舞した解放政局に戻るのではないかという不安まで抱くほどだ。弾劾政局が終われば消える一時的な現象ではなさそうだ」としていました。

20) また、同社説は3月1日にキャンドル集会が光化門で、太極旗集会がソウル市庁前広場で行われ、キャンドル集会は朴大統領の弾劾を、太極旗集会は弾劾の棄却を求め、両集会とも主催者が総動員を宣言し、憲法裁判所の弾劾審判に対する決定が近づいていることから、現場では何が起こるか予断を許さない状況だとしていました。

集会には過去最大の500万人、ろうそく集会には30万人が参加したと主催者が主張し、太極旗集会参加者からは「弾劾に賛成した政治家たちを刺殺しよう」「政局次第で暴力を行使しなければならない時は、先に血を流そう」などの発言が飛び出し、一方、ろうそく集会参加者からは「弾劾が棄却されたら憲法裁判所に攻め込もう」と叫ぶ者もいました。なお、政治家も二つに分かれ、金鎮太議員、尹相炫議員ら自由韓国党親朴派議員や金文洙元京畿道知事などが弾劾反対派の集会に参加し、共に民主党の文在寅前代表、秋美愛代表、李在明城南市長らは弾劾賛成派の集会に参加していました（朝鮮日報日本語版3月2日10時36分配信）。²¹⁾

光化門広場の方向へ向かう西小門道では、大邱・忠清北道・全羅北道などの地域のナンバープレートをつけた大型観光バスからリュックサックを背負って太極旗を手にした人々が果てしなく降りたち、昼間の世宗大通りは弾劾反対を叫ぶ圧倒的な数の年配者の声と太極旗の波で埋め尽くされていました（ハンギョレ新聞3月2日9時11分配信）。また、弾劾賛成と反対を唱える2つの異なる陣営が設置した約100個のスピーカーからは、互いに競い合うようにスピーカーの音量を上げた状態で掛け声や主張、歌や扇動が飛び交い、近日中に下される憲法裁判所の弾劾審判決定宣告を念頭に置いた勢力誇

21) 他方、朝鮮日報によれば、ソウル市が2月28日に、ソウル市庁前広場に1月21日から40張り余りのテントを設置している太極旗集会の関係者7人に対し、集会デモ法違反や公務執行妨害などで警察に告発していたことが明らかになりました。ソウル市は、ソウル市庁前広場から目と鼻の先にある光化門広場で960日以上にわたり70張りものテントを設置しているセウォル号関連の団体や、朴大統領の弾劾を求めるキャンドル集会関係者が設置したテントについては何の措置も取らず放置しているため、ソウル市の対応は公平性に大きな問題があると言われ、指摘を受けたソウル市の朴元淳市長は3月2日に「キャンドル集会は不正な権力に対する国民の怒りが示されたものだが、弾劾に反対する集会は正義のない権力を擁護しているから」と述べ、ソウル市の担当職員も「光化門広場のテントは単なる無断占拠だが、ソウル広場の弾劾反対テントは国内に激しい対立をもたらしているため事情は異なる」と説明し、光化門広場のテントは合法で、ソウル市庁前広場のテントは違法との見解を明らかにしました。朝鮮日報は、「朴市長は次の大統領選挙への出馬は取りやめたようだが、自治体のトップという地位にあるなら法律や公平性を重視して施策に取り組むべきだ。今回のように誰が考えても偏ったことをしているようでは、国内に激しい対立をもたらしているのは他でもない『ソウル市長室』ということになる」と報じていました（朝鮮日報社説「法律・公平性を無視して国内対立をあおるソウル市長」日本語版3月3日10時35分配信）。

示の意味合いが強かったと言われていました（中央日報社説『『大韓独立万歳』98周年…引き裂かれた民心、二分された広場』日本語版3月2日9時56分配信）。²²⁾

両陣営の集会や行進が行われた午後2時から世宗路・太平路・鍾路・乙支路など光化門一帯の交通は全面規制され、こうした大規模な集会や行進によって週末のソウル中心部では4か月以上にわたって交通がマヒ状態になっていました（朝鮮日報日本語版3月2日10時36分配信）。

中央日報の社説「弾劾賛否扇動が三一節精神と何の関係があるのか」（日本語版3月1日14時43分配信）は、「98年の歳月が流れた今年の三一節（独立運動記念日）は最も憂鬱な心境で迎えることになった。街中の太極旗さえも朴槿恵大統領弾劾反対デモの代名詞と呼ばれ、国の分裂の溝が深まる錯雑とした現実だ。弾劾賛成側は『ろうそく抗争が三一運動の延長線』と叫び、反対側は『斧を持って国を救いに行こう』というスローガンを出す。三一節が自分たちの決戦の場やDデー（重要な予定の日の意…筆者加筆）であるかのように広場への結集を扇動している」「三一運動こそが『憲法による統治』を実現させる始まりだった」「憲法に基づく憲法裁判所の大統領弾劾審判をやり込めようと対決と暴力、暴言を扇動することが、いったい三一節精神と何の関係があるのか」と疑問を投げかけていました。

（次号に続く）

22) 弾棄国は「三一節宣言文」を発表し、その中で「日帝より残酷な不義で武装した勢力が1ウォンも受け取っていない大統領を弾劾しようとしているため、太極旗を持つことになった」とし、弾劾審判の大統領側代理人である金平祐弁護士は「憲法裁判所のむやみな審理結果に服従するのは北の人民と変わらない」と述べ、青瓦台に向かった弾棄国の行進では軍歌「滅共の松明」が流されていました。他方、ろうそく集会は雨の中で行われ、レインコートを着た参加者は「say弾劾」という歌が流れる中で「大統領弾劾認容万歳」を叫んでいました（中央日報日本語版3月2日15時8分配信）。

なお、金平祐弁護士が3月2日付の大手保守紙や経済紙に弾劾反対を訴える意見広告を出し、その中で「憲法裁判所が朴大統領側の弁論を遮り強引に結審したと批判したほか、朴大統領の疑惑などを調べていた特別検察官が「罪のない愛国企業家の李在鎔サムスン電子副会長を逮捕して虚偽の自白を強要している」とも非難していたことに対し、法曹界では代理人団に選任された弁護士によるこうした「場外戦」は不適切と指摘する声があると報じられていました（聯合ニュース3月2日11時6分配信）。